

# 最新の骨折治療法を、特訓 第2回裏磐梯イリザロフ法セミナー

第2回裏磐梯イリザロフ法セミナー（福島県立医大外傷学講座・総合南東北病院主催）は、7月28日（金）から30日（日）までの3日間、郡山市の総合南東北病院と北塩原村の裏磐梯レクリエーションホテルで開かれ、全国から集まった約50人の整形外科医らが最新の骨折治療法に意見を交わし、治療技術を体験学習しました。

イリザロフ法は、ロシアのイリザロフ医師が開発した骨折が治る時の再生力を生かす骨延長術で日本には20数年前に紹介された新しい治療法です。

今回のテーマは「膝関節周囲の整復と固定・再建」。初日は午前11時から同病院のNABEホールで開会式が行われ、同講座主任教授の松下隆同病院外傷



あいさつする松下外傷センター長



最新の治療技術習得に取り組む医師たち

センター長が「骨延長術の基本を守る」ことが最重要」とあいさつしました。衣笠清人近森病院整形外科統括部長が「膝関節周囲骨折の整復のコツとタイムイング」と題して講演したのをはじめ特別講師が新鮮外傷例を中心に整復の手順や技術の工夫などについて講演しました。午後は本院大講堂で整復技術の体験学習が行われ、参加者は指導医師のアドバイスを受けながら様々な器具を駆使し、真剣な表情で取り組んでいました。

2・3日目は会場を裏磐梯レクリエーションホテルに移し門司順一松田整形外科記念病院名誉院長ら特別講師10人の講演とデイスカッション、技術体験学習が行われました。

## アルパとサンポーニヤの南米音楽堪能 紙ふうせんの「サマーコンサート」

総合南東北病院ボランティア・紙ふうせん主催の「サマーコンサート」は7月22日（土）午後、郡山市の同病院北棟1階NABEホールで開かれ、南米音楽で入院中の患者さんや市民たちを楽しませました。



佐々木さん（左）と高橋さん（右）の演奏風景

新百合ヶ丘総合病院で2度公演したこともあるアルパ演奏家の佐々木（ささ）と、むつみさん、ケリーナ&サンポーニヤ演奏家の高橋マサヒロさん登場。郡山初演の2人は、さっそく南米音楽はじめ「コーヒールンバ」「涙そうそう」「夏の思い出」など10数曲を次々に披露しました。

アルパは、インディアンハーブとも呼ばれる小型のハーブでパラグアイが本場。サンポーニヤは竹笛を数本束ねた楽器で、フォルクロレの演奏ではおなじみの楽器です。心に優しく、しっかりと支えるようなアルパ、独特なサンポーニヤの音色がホールいっぱい響きわたると市民たちは、うっとりとした表情。「夏の思い出」の演奏に合わせ「夏が来れば思いだす、はるかな尾瀬遠い空…」と口ずさむ人たちもおり、音楽の素晴らしさを満喫していました。

## 紙ふうせんに郡山市長感謝状 第16回市社会福祉大会で伝達

第16回郡山市社会福祉大会は7月19日（水）に郡山市民会館で開かれ、総合南東北病院など南東北グループの病院・施設でボランティア活動を続けている「紙ふうせん」（都築芳子代表）が、社会福祉の向上に尽力したとして郡山市長から感謝状が贈られました。

大会には保健、医療、福祉関係者ら合わせて約700人が出席しました。太田健三市長が挨拶し、社会福祉向

上に努めた個人や団体を表彰。大会決議を採択した後、豊中市社会福祉協議会の勝部麗子福祉推進室長が「孤立させない地域の『縁』。誰もが住みやすい地域づくりへ」と題して記念講演しました。

市長感謝状を受けた「紙ふうせん」は、平成16年4月に総合南東北病院の外來診療を専門とする南東北医療クリニック・南東北眼科クリニックの開院と同時に結成。以来、院内の案内や車イスの介助、図書整理、音楽などイベント・園芸活動のほかボランティアの受け入れ、市内の施設訪問などの奉仕活動を行っています。